

1 題材名 「流れる時をとらえて」～変化する自然の現象や、風景の様々な美しさを表そう～

2 目標

- モチーフを選び、多様な表現のために必要な造形要素をじっくりと観察したり、関心をもつたりしながら活動に取り組む。(美術への関心・意欲・態度)
- モチーフを観察し、変化する自然の現象や、風景の様々な美しさから表したい主題を発想し、構想を練ったり、主題を表現する方法を考えたりする。(発想・構想の能力)
- 用具を効果的に使い、美しく表現するために、造形感覚を働かせて色や形などの特徴、場面や様子、雰囲気、情緒などを感じ取り、創造的に表現できる。(創造的な技能)
- 表現の過程や完成段階で作品を鑑賞し合うことで、互いの表現のよさや個性などを認め尊重し合い、各自が学んだことを共有できる。(鑑賞の能力)

3 授業展開にあたって

(1) 教材観

本題材では、自然の様々な現象や、風景の美しさを表現する。例えば、それは、刻々と変化する陽光や雲の表情、萌える木々であったりする。これらを表現するためには、何よりも実際の自分の体験が前提となる。対象に対する感動と印象をまず深く心に焼き付ける必要がある。風景画を制作する場合、すべての工程を“現場”で行うことが理想であるが、時間の確保や天候など様々な制約の中で進めるため、写真を効果的に活用する。

写真は実際の風景の色や形などの参考や補足程度に活用し、できるだけ生徒自身が捉えたイメージを大切にさせたい。生徒各自が感動を得、強く印象を持ち得る対象を自分の目で見つけ出すこと、そしてその感動や印象を率直に表現に込めさせたい。

(2) 生徒の実態 (在籍 男子14名 女子21名 計35名)

生徒たちの多くは、小学校で風景画や人物画を描いた経験がある。中学校に入ると、特に絵画表現において客観的に自分の絵と対象を見比べることへの興味が高まるため、逆に描くことに対して構えてしまう傾向がある。とくに、着彩をする時に「色塗りは苦手」というつぶやきがよく聞こえてくるが、このことは下の表1に示した質問1からもうかがえる。また、本題材の導入で透視図法を学習したが、生徒たちの興味・関心が高く、日常生活における簡単なスケッチやイラストで活用している様子が多く見られる。(質問4・5)

表1 風景画制作についての実態調査

1	スケッチと着彩ではどちらが得意ですか。	スケッチ8名 着彩6名 両方苦手16名
2	スケッチと答えた理由は何ですか。	・思うように描ける ・描きやすい
3	着彩と答えた理由は何ですか。	・楽しい ・背景を塗るところが好き
4	一点透視図法を使って描くことができますか。	はい 27名 いいえ 4名
5	二点透視図法を使って描くことができますか。	はい 9名 いいえ 22名
6	一点透視図法を使って描くものは主に何ですか。	道路、一本道、並木道など正答率85%
7	二点透視図法を使って描くものは主に何ですか。	ビル、建物、高層ビルなど正答率60%

(調査日時9月10日、31名実施)

(3) 教育観

生徒の風景画制作への思いは、「もっと上手に描きたい」「色を思い通りに塗りたい」「形を思い通りに描きたい」「どのように描けばよいか分からない」などである。大人の感覚やものの考え方、自己意識をもち始める中学生の時期の苦手意識が表れている。そのために基礎的技能を確実に身につけられるような工夫・手立てが必要である。また、生徒の実態において、技能の習熟度や進度は多種多様である。そのため、生徒一人一人の個性に合わせて適切な支援をしながら基礎的技能を身に付けさせていく必要がある。また、発想から完成までの表現の過程を通して自己を振り返り、よりよい表現のための工夫や新たな課題を発見したり、自分のよさや学習で得たことなどを発見・確認していく自己確認を取り入れ、表現の基礎的能力の定着を図り、自信を持たせたい。

4 題材の評価規準

	ア 美術への 関心・意欲・態度	イ 発想や構想の 能力	ウ 創造的な技能	エ 鑑賞の能力
題材の 評価規準	モチーフの魅力にせまり、じっくりと観察している。	自然の現象や風景の美しさを感じ取り、表現の仕方を工夫している。	遠近法や色彩の工夫をし、多様な表現方法や材料などの生かし方を工夫して表現している。	感性や想像力を働かせて、作品について多様な表現のよさや美しさなどを感じ取っている。
学習活動における 具体的評価規準	①モチーフを見つけ出そうとする意欲をもっている。 ②モチーフをじっくりと観察している。 ③色彩や形の造形について関心を持ち作品に生かそうとしている。 ④遠近法に関心を持ち、図法を生かして表現している。	①指や見取り枠を使い、構図の取り方を工夫している。 ②自然のモチーフから表したい主題を発想している。 ③色彩や形の造形を考え、適切な表現方法を発想し、構想している。 ④遠近法の効果を考え、空間で感じ取った感覚を大切に発想している。	①新鮮な見方や、明暗、奥行き、広がりを生かしたモチーフや構図を選んでいる。 ②光と影の関係を理解し、写実性や立体効果を表現している。 ③色や形の造形を生かし、表現方法を工夫している。 ④線遠近法、空気遠近法、色彩遠近法を用いて距離感や空間を表現している。	①自分の作品のよさや工夫した点を的確に振り返り、説明している。 ②作者の心情や意図、表現の工夫などを感じ取ったり味わったりしている。

5 授業計画 (11 時間扱い)

次	時	授業のねらい	主な学習活動	具体的評価規準
一	1	○遠近法の表現や効果について理解する。	・一点透視図法、二点透視図法を知り、作図を練習する。	ウー④ アー④
二	2	○本題材に関心を持ち、意欲的に学習しようとする態度を持つ。	・参考作品を鑑賞し、見通しを持つ。 ・画用紙に補助線を描く。	エー② アー①
	3	○モチーフの選び方や構図を工夫する。	・見取り枠や構図について知り、現場に出てモチーフを選ぶ。	アー②
	4	○モチーフを決定し、さまざまな構図を試しながら主題を構想する。	・構図を決めるための簡単なスケッチを描いて様々なアイデアを試みる。	イー①
	5	○モチーフの特徴や雰囲気を感じ取り、見方を深める。	・特定の場所の造形的な面白さ、色や形の美しさを感じ取る。	イー②
三	6	○平面的な形と立体的な形とを観察する。	・モチーフを単純化して立体的を意識しながら下描きを整える。	ウー②
	7	○広がりや奥行きの表現を意識しながら着彩する。	・寸法、ディティール、階調をおさえ、絵に広がりや奥行きを出す。	ウー① アー③
	8	○光と影を理解して立体感を表現する。	・光の流れる方向をおさえ、モチーフの立体感を表現する。	ウー③
	9	○水彩画の様々な技法を生かし、モチーフの質感を表現する。	・にじみやドライブラシなどの技法を使い、質感を出す。	イー③
	10	○ディティールを書き込み、絵の完成度を高める。	・対象が近い部分や主役を中心に細部を描き込んで強調する。	ウー④ イー④
四	11	○完成した作品を相互に鑑賞する。	・表現について適切に説明する。	エー①

6 本時の学習

(1) 目標 遠近法の効果を考え、感じ取った感覚を大切にしたりしながら、前景部分の細部を描き込み、広がりとお行きの表現を工夫し、完成度を高めることができる。

(2) 主な評価規準と支援策

評価規準	十分満足できる状況 (キーワード)	努力を要する生徒への手立て
色や形の造形を生かし、表現方法を工夫している。 (創造的な技能)	・高い表現効果を生かす ・迫力ある描写 ・細部表現の追及	技術的な面で、描き込みが困難な場合、画面に筆のタッチで描画パターンを示してみせる。

(3) 資料・準備 参考作品、色鉛筆、布、スパッタリング網、ブラシ、新聞紙、刷毛、ローラー

(4) 展開

学習活動及び内容	授業者の活動(・)と評価の視点㊦
1 各自の制作の準備をする。	・スケッチや写真資料が用意されているか確認する。
2 本時の学習課題を知る。 細部を描き込み、作品の完成度を高めよう ①参考作品を鑑賞する。 ②効果的な技法や用具について考え、構想を練る。 ③用具の準備	・参考作品を鑑賞させ、遠近表現の面白さや空間表現に対する興味や関心が持てるようにする。 ・課題を説明し、目指す作品の具体的な例を技法別に提示する。 ・描写力に自信のない生徒には、抽象的な模様や筆のタッチを利用して細部を表現するよう助言する。
3 本時の課題を理解した上で、制作を開始する。 ・様々な道具を試して、効果的な表現を考え画面に取り入れる。 ・細かい書き込みに抵抗を感じている生徒は色鉛筆など他の描画材を体験し、一つの画材にこだわらずに表現する。 ・水の量、絵の具の量の加減を学びながら描画を進める。	㊦遠近法の効果を考え、空間で感じ取った感覚を大切に発想している。 ・細部にこだわりながらも、思い切って手を動かすことや、偶然できる「痕跡」の面白さなど大切にすることを意識させる。 ・布や筆のタッチによる表現は「偶然性」の要素も大きいことを理解させる。 ・やりすぎて汚くなったり、タッチが重くなったりつぶれてしまわないように留意する。
4 本時のまとめをする 「細部を描き込み、作品の完成度を高めることで奥行や広がりなど遠近表現が強調される」ということをまとめとして板書する。	・写真を丸写しにしている生徒には、あくまで参考程度に使用するよう助言する。 ㊦色や形の造形を生かし、表現方法を工夫している。
5 次時の学習内容を知る。 自分の作品を振り返り、鑑賞の鑑賞会をしよう。	・次時の学習の予告をし、意欲や見通しを持たせて授業を終える。